

「3.11いわて教会ネットワーク」ニュース

No.31 2020年5月31日 (ペンテコステ記念号)

3.11いわて教会ネットワーク <https://311.ichurch.jp> ゆうちょ銀行 18350-418531

新型コロナウイルスの脅威の中で

各地の働きは、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響下にあります。ネットワークとしては宮古の拠点「シャロームハウス」の閉所を考えましたが、岩塚先生の報告にもあるように、大家さんのご好意で引き続き使用できることになりました。今回のニュースレターでは、このようなコロナ禍の中にある、内陸も含めた各地の様子をレポートしていただきましたので、ぜひ祈りに覚えてください。



宮古めぐみキリスト教会 (盛岡BBC開拓伝道)

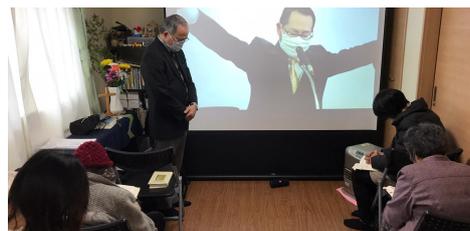
報告：キャサリン・ポーター

◇宮古めぐみキリスト教会では4月19日から主日礼拝をZoomで行うことになりました。こうして一緒に神様を見上げることができたのは何よりの感謝でした。礼拝後に祈禱課題を分かち合い、様々な影響を受けている兄弟姉妹と交わりが与えられています。◇3月から予定された支援活動や教会伝道会は中止になりましたが、伝道が継続されています。マスク作りをして必要な方にプレゼントをするのがこの中の一つの取り組みです。お茶会に集っていた高齢者と電話で話したり、ハガキや世の光の本をポストに入れたり、個人的に会ったりしています。買い物にさえ出かけず、丸一ヶ月人と会うことがなかった、コロナで不安になって不健康なほど痩せてしまった、このような話を聞いています。◇6月から少しずつ活動を再開することになります。礼拝をZoomで配信しながら、集まりたい方が集まれるようになります。消毒、空気交換、食べ物の提供を気をつけながら、市内の集会所を使わせてもらえます。皆さんの心配に心を寄せながら、キリストの香りをこの街で広げていきたいと思っています。

三陸のぞみキリスト教会 (JECA岩手開拓伝道)

報告：李世楽

◇4月初めから県外からの奉仕者が来られず、ビデオ説教での礼拝をささげていたところ、16日に緊急事態措置実施。コミュニティセンターが閉鎖されたため、急遽19日から5月10日まで、幹事教会(弘前福音)からのライブ配信により、各家庭での礼拝としました。地域の求道者の方々(平均3名)は、山田町のラリー宣教師宅で共に礼拝をささげました。5月17日から再びコミュニティセンターが使用可能になり、通常の礼拝に戻りました(愛餐会は引き続き見合わせています)。また24日の礼拝では、花巻のヤング先生のご奉仕で、2ヶ月ぶりの「生の説教」を聞くことができました。◇この期間は、主の恵みと力強いみわざを見る時でもありました。◇李宣教師夫妻・ラリー宣教師夫妻が地道に訪問を続ける中で、地域の中から、新たにイエス様を信じる方・受洗を希望する方が起こされました。芽生えた信仰がさまざまな妨げから守られ、健やかに成長するようお祈りください。



盛岡聖書バプテスト教会 (保守バプテスト)

報告：近藤愛哉

◇この5月より、シオン錦秋湖で教会員家族を中心に行われている礼拝が盛岡聖書バプテスト教会の公式な礼拝となりました。◇現在、教会内の

会堂での礼拝に加えて、一階のホールとオンラインでの配信を利用した各家庭、そしてシオン錦秋湖と、宮古めぐみキリスト教会とに分かれて礼拝をささげています。◇3月末にはバプテスマを行うことが出来、感謝です。礼拝と祈禱会を除く定期集會や伝道プログラムは基本的に休止中ですが、イングリッシュカフェや学びをオンラインで続けています。他にもつながりのある未信者の方々と連絡をとりながら、再会の時を祈っています。◇写真：3月には6名の方々を送り出しました。

北上聖書バプテスト教会（保守バプテスト）

報告：佐々木真輝

◇3月末からオンラインによる礼拝のライブ配信を行い、教会に集う方々も、ご自宅に留まる方々も、共に礼拝を捧げられるようにしています。現在は大船渡聖書バプテスト教会の皆さんもライブ配信を用いて礼拝に加わっておられます。◇礼拝のライブ配信を行うようになって、これまで礼拝に集えずにいた方々もご一緒出来るようになり、大きな喜びとなっています。◇このような状況下で、末期がんのために緩和ケア病棟におられたS Yさんが信仰告白に導かれ病床洗礼にあずかりました。8年前に召された教会員のご主人で、毎年、召天者記念礼拝にだけはおいでくださっていました。亡き奥様の祈りと証し、召天者記念礼拝を通しての証しが実を結び、大きな励ましをいただいた時でした。およそ2週間後に主の御元に召されました。◇写真：病床のS Yさん



ヤハバイブル ネットワーク（OMF開拓伝道）

報告：シェー・ホイヤン

◇ヤハバイブルネットワークの為に祈ってくださりありがとうございます。矢巾での開拓伝道が始まってから早くも1年が経ちました。地元の方々との関係が深められている事を感謝します。緊急事態の期間中も聖書の学び、英会話クラス、日曜集會をオンラインで継続できたことを感謝します。また今月末には主に医科大生を対象にマスクと漫画聖書を配布する事が出来ました。◇【お祈り課題】●緊急事態が解除した今どのように伝道を続けてゆくか知恵が与えられるように●集會に集っているクリスチャンの成長の為に●聖書を一緒に学んでいるノンクリスチャンの救いの為に●街頭配布、家庭訪問、新聞折込を通して教会のチラシを配布する予定です。聖書に関心のある方と繋がる機会が与えられるように●スタッフが聖霊の導きに従って福音を伝え、イエスキリストの弟子を育ててゆく事が出来るように。◇写真：オンライン礼拝の様子

グレイスハウス教会（同盟基督教団東北宣教プロジェクト）

報告：齋藤満

「神のみわざに目を留めよ。神が曲げたものをだれがまっすぐにできるだろうか。順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。これもあれも、神のなさること。後のことを人に分からせないためである。」伝道者の書7:13-14



◇主の恵みと平安がありますように。いつもお祈りとご支援を感謝いたします。今年の5月15日にグレイスハウス教会は記念すべき1周年を迎えました！これまで被災地で積まれてきた祈りによって、この教会が被災地でスタートし、今日まで守られていること心から感謝いたします。◇今、コロナウィルスの影響により、被災地は再び深刻なダメージを負っています。ようやく再建された商店やレストランが営業自粛となり、再建のための借入金を返せない状態にあるのです。多くの自営業の方が、このまま事業を続けるかどうかの決断を迫られています。またコロナの影響は商店だけではなく、教会も、災害公営住宅での活動に自粛要請が出て、活動を休止しています。また礼拝もWEB礼拝に切り替え、イベントも自粛しています。しかし感謝なことに岩手県でコロナ患者が公に出ることもなく、6月以降活動を少しずつ再開していく予定です。冒頭の御言葉、このコロナ禍において、主に語られた御言葉です。この御言葉は単に逆境の時に賢く生きることをすすめるものではなく、良いときも悪いときもそれは神の摂理のうちにあることを示してい

ます。この大変なコロナ禍さえも、神の御手の中にあるのです。これからもどのような状況においても主に委ね、状況が悪いときにも宣教に励むものでありたいと願っています。



宮古コミュニティチャーチ（単立）

報告：岩塚和男

◇宮古では、3月に予定されていた玉川聖学院、EPJM3月チームがキャンセルになり、さらに4月以降予定されていたチームもすべてキャンセルあるいは延期になりました。緊急事態宣言は解除されたとはいえ、まだしばらくは県外あるいは海外からのチームを受け入れることは難しそうです。そうした状況を鑑み、宿泊のために借りていたシャロームハウスも6月で一旦閉じることとなりました。◇シャロームハウスの大家さんに、新型コロナウイルスが終息したら是非またお借りしたいという思いを伝えたところ、再開したらまたこれまでのように使うことを条件に、それまで家賃は払わなくてもいいということにしてください、荷物なども建物の中にそのままおいておけることになりました。このようなご厚意をいただけたお陰で、新型コロナウイルスの感染が終息し、また支援チームが来られるようになったら、すぐに活動が再開できる状態を維持することができます。

盛岡みなみ教会（同盟基督教団）

報告：大塚史明

「私の前に あなたの道をまっすぐにしてください」（詩篇5:8b）

◇4月12日のイースター。洗礼を受けられたのはN.Sさん。彼女は山田町出身で震災もそこで経験しました。心身に疲れを覚えていたころふと

「いっぱい山田」に立ち寄り、そこで「いのちの小道」という玄関脇にある言葉にひかれ、また当時のスタッフであられた本間早苗姉が親身になって対応くださったことが、イエスさまとの出会いのきっかけとなりました。カフェから礼拝へと彼女が導かれたのは、いっぱい山田に携わって労してくださったお一人おひとりの結実です。その後、盛岡に引っ越しをし、みなみ教会につながり、今回のバプテスマとなりました。りっぱいに証しをし、先月は宣教師の礼拝メッセージに挿入するイラストを描いてくれました。◇感染リスクを避けるため、4月半ばから礼拝を会堂とオンラインと二つの手段を用いています。また、水曜夜の祈祷会（水曜チャペル）はオンラインのみで開催しています。愛知へ転居された高田さをり先生や仙台に戻った壮年、休校中の高校生、勤務の忙しい方などがオンラインによって参加できるようになりました。これも今味わっている恵みです。



水沢聖書バプテスト教会（保守バプテスト）

報告：南鎮秀

◇日本各地でコロナウイルス感染者が急増し、全国に「緊急事態宣言」が出され、やむを得ず当教会も5月31日まで礼拝を休止しましたが、いよいよ6月7日から「主日の礼拝」を再開することになりました。けれどもまだ、コロナウイルス感染の危険が残っているので健康上の問題や仕事上、出席が困難な方々のため、礼拝堂での安全対策を講じると同時に、自宅で礼拝が守られるようにメッセージのライブ配信を準備しています。

【安全対策】●人と人との間隔を前後左右、2メートル維持する（礼拝人数の制限）●日曜礼拝に参加することを不安に思う方については、自宅でネット礼拝を勧める。●マスク着用と換気、消毒の徹底（ドアノブ、トイレ、会堂のテーブルと椅子、スリッパなど）●聖餐式と講壇交換を中止する●小グループ活動や学び会を画像で行う●引き続き、他県往来やイベント参加などに自粛を求める。●こういう危険な時、牧師は自宅で礼拝を捧げている教会員が霊的に孤立することがないように努める。

北三陸キリスト教会（開拓伝道・ボランティアセンター）

報告：ダーン・バークナー



◇北三陸で安全に集まるのを長くさせるために県外奉仕も県外人に会うのも2月からやらないと決めた。その結果、北三陸で集まりが全部4月まで続けられた。4月1日から新しい集まりを延期し、野田礼拝を休んだ。災害（津波・2016年台風・2019年台風）あった近所、復興・公営・仮設住宅の数か所でのサロンと復活祭会を14日から休んだ。岩泉の直接礼拝を19日から休んだ。説教、讃美歌CD、祈り課題をインターネットない人（それが多）に配って、それに教会Facebookページに置いて、その形で礼拝を続けた。福音トラクト、イースタープレゼントを数近所数か所で配った。6月の間から岩泉礼拝と色々なサロンが直接集まり、家訪問が増え、2016年台風後出来た仮設住宅の中最後のを閉じられる。◇【祈り課題】●各人の必要を答えるような仕え●ペースダウン、経済応援、健康●信者と働き手が増えるように◇写真：コロナ前の様子



花巻めぐみキリスト教会（OMF開拓伝道）

報告：ピーター・ヤング

◇当教会は4月12日の復活日に賛美礼拝を行い、次の週まで会堂で集まる礼拝を続けました。26日以降は国と県をはじめ所属団体OMFの方針も伺い ZOOM システムの利用を導入しました。人数の少ない教会ですが

同時に室内のスペースも限られて「三密」は避けていくと判断しました。◇オンライン礼拝にはほとんどの兄弟が接続できて慣れてきたことは本当に感謝します。御言葉に養われて交わることができました。ただ他の活動（親子の会、英会話、料理講座、木曜のカフェ等）は休止になり、いつも来ている求道者や町の方々との出会いは減ったことは心配でした。今緊急事態宣言が解除されて、感染防止対策をとりながらも6月から会堂での礼拝や他の活動を再開するように準備しています。◇ちょうど近くの場所に家を購入、新会堂のするため改造する最中です。本来は海外から短期奉仕者を招くけれど、それが不可能になり少人数で取り掛かっていますが意外に早く進捗しているのを深く感謝します。

2020年度会計報告（2020.3.11-2020.5.27）

献金者

（敬称略あいうえお順・2020年3月11日～2020年5月27日まで）

川瀬美千代、畑章夫、濱崎政義、小山バプテスト教会、港北聖書バプテスト教会、湘南グレースチャペル、水沢聖書バプテスト教会、横浜永谷キリスト教会、玉川聖学院

概要

*新型コロナの影響で3.11集会在中止となったのに続けて、シンガポールEPJMチームや玉聖チームなど、定期的においでくださっているボランティアチームの来訪が中止となりました。また各地の活動も大幅に制限されています。このため全体としての動きは低調になりましたが、このような状況でも捧げ続けてくださり、祈られていることを心から感謝します。

*雑収入には震災関連書籍販売、物品販売、支援拠点修繕補填分が含まれます。

*住居費には盛岡、宮古、大船渡にある3件の支援拠点に関わる支出です。

【2020年度収入】 5/27現在	
献金	381,758
指定献金	0
雑収入	83,415
収入合計	465,173
【2020年度支出】 5/27現在	
支援活動費	35,932
広報活動費	0
交通費	6,840
会議費	16,597
事務通信費	3,339
住居費	338,674
人件費	0
福利厚生費	0
支出合計	401,382
開始残高	5,625,924
現在残高	5,689,715